

新学部 (ライフデザイン学部 生活支援学科・健康スポーツ学科) 新学科 (工学部 機能ロボティクス学科) 誕生。

2005年 朝霞キャンパスにライフデザイン学部、川越キャンパスに機能ロボティクス学科を開設する予定です。ここでは新学部 新学科の概要をお知らせいたします。

ライフデザイン学部 生活支援学科/健康スポーツ学科

ライフデザインとはなにが
人が人として有意義に生きることを追究する
「これはフオロライ、オプライフ(QOL)」とい
う考えに基づくものです。子育てに手がか
かったり、年をとって体力が衰えたり、事故や
病気の障害で体が不自由になってしまふ。この
ような出来事は身近に十分起こりえること
です。しかしとつという状況にあつても、日常生活
の環境を整えること
で、質の高い、豊
かな生活を送れる
ようになります。核
家族化、少子高齢
化が進む社会にお
いてはより一層こ
うした問題が論じら
れることになるで
しょう。



実習施設完成予想図

自分の生命の営
みを含めた「21世
紀の生活」ライフ
をどう描いていく
かを考える学問を
体系的に打ち立て
ることは今後の社会

に極めて有益です。このような視点を持ち、
多くの人々の生活をサポートする知識や技能
を持った人材を育成するために「ライフデザ
イン学部」が誕生します。

「福祉」「健康」「環境」の3要素で学科構
成
生活を具体的に描くときに必要な要素に
は「福祉」「健康」「環境」などが考えられます。
これをそれぞれ学科に当てはめ「生活支援学
科」「健康スポーツ学科」「環境デザイン学科」
と定めて設置認可申請中(「環境デザイン学科」
2006年4月設置構想中の3学科構成。
3学科は密接に連携し、幅広くライフデザイ
ンについて深求します。

将来的には次世代の社会貢献と学びの現場
を近づけ、ライフデザイン学部が立地する朝霞
キャンパス周辺の地域に学問の成果を還元す
るといった新たな試みを模索していきます。具
体的には老人介護や子育て支援など、地域貢
献に役立つ事業を視野に入れていきます。

「生活支援学科」

障害者や高齢者、子どもとも社会的に弱い立場にある人々にとって
有意義な生活とは何かを検討しながら、具体的な支援策を追求
生活支援学科は体の不自由な人や高齢者、
子どもにとって質の高い生活とは何かそして
それをどう表現していくかを考える学科で
す。既存の「社会学部社会福祉学科」と重なる
部分もありますが、福祉学がどちらかとい
うと障害や老化などに至ったときの対応や、
福祉に対する政策、制度などの仕組みを考
える学問であるのに対し、生活支援学は福祉
「健康スポーツ学科」

「健康スポーツ学科」

健康スポーツ学科は、建築物・公共施設
機能の維持増進を図り、より健康的な生活を
創造していく学科です。「スポーツ」という名が
ついていますが、いわゆる競技スポーツではな
く、楽しみながら体を動かし、最適な健康状
態を保つ健康促進の観点からスポーツに学
問的にアプローチする学科です。

2006年4月には「人間環境デザイン学科」
人間環境デザイン学科は、建築物・公共施設
をとりこぎ、生活用具の改善な
どを通じ、人間のよりよい生活環境を提案し
ていく学科です。社会に暮らすすべての人に
とって住みよい環境条件を、計画やデザイン
の段階から配慮することを学びます。

ライフデザイン学部の概念

より良い生活の質の追及



●(高齢者、障害者、児童福祉関連の)社会福祉施設および事業所 ●官庁、自治体、市区町村等の健康・管理に関する部署 ●医療機関(病院、診療所) ●民間企業の健康管理室 ●スポーツ施設関連の民間企業 ●大学院への進学

2005年4月、東洋大学が大きく変わる!

新学部・新学科の開設のほかにも、新時代にむけた新たな挑戦がスタートします。

■白山キャンパスで文系5学部(文・経済・経営・法・社会)の4年間一貫教育を開始。

これまで1・2年生(朝霞キャンパス)、3・4年生(白山キャンパス)で分かれていたキャンパスを統合、これで全学部・全学科で学部、大学院までの同一キャンパスでの一貫教育が実現。学年を超えたゼミや、より柔軟性の高い履修、キャリア形成における就職支援など同一キャンパスならではのメリットが増大します!

■朝霞キャンパスに、ライフデザイン学部を新設。

2005年4月には、ライフデザイン学部「生活支援学科」「健康スポーツ学科」、2006年4月には「人間環境デザイン学科」が開設予定。約15万㎡という恵まれた環境の中で、いま新たな動きが始まろうとしています。

■大学院工学研究科を現在の6専攻から4専攻に改組。

新専攻は機能システム専攻、バイオ・応用化学専攻、環境・デザイン専攻、情報システム専攻の4専攻です。
総合力のある技術者や研究者の育成を目指し、従来の分野を系統的・有機的に結合。「先進性」「開放性」「柔軟性」の3つをキャッチフレーズに、工学全般にわたる学際的な教育を行います。

■大学院国際観光学専攻(修士課程)を新設、板倉・白山2キャンパスでの受講が可能に。

大学院国際観光学専攻を開設します。板倉・白山の2キャンパスでの開講は東洋大学初の試み! 関係学部はもとより留学生や社会人など多様な入学者を積極的に受け入れる予定です。ダイナミックに進化する国際観光を学際的に学び、観光立国のニーズに対応した専門家の育成を目指します。

白山キャンパス
文学部・経済学部・経営学部
法学部・社会学部 1~4年
大学院文系各研究科
専門職大学院

朝霞キャンパス
ライフデザイン学部

川越キャンパス
工学部 1~4年
大学院工学研究科

板倉キャンパス
国際地域学部・生命科学部
1~4年
大学院国際地域学研究科
大学院生命科学研究科

工学部

「機能ロボティクス学科」

<http://www.eng.toyo.ac.jp/robotics>

文理融合、医工連携でロボット作り。人間社会をさらに快適で便利なものに。

工学部機能ロボティクス学科は、10年後、20年後の社会においてロボットがどのような形で、いかに人間の生活と密着した役割を果たしているかを追究する学科です。

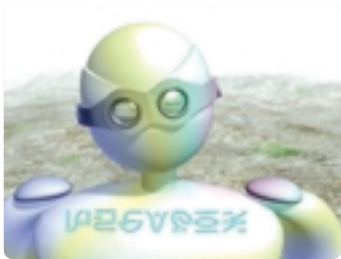
本学科が目指すのは、工学技術を通して、人間社会をさらに快適で便利にしておくことです。健康で豊かな人間生活を保障するために、機械工学や電子工学をベースに、医工学とマイクロナノ工学の融合分野および文理融合領域において、自然および生命体に優しい機器システムの開発ができる人材を育てます。

これまでのロボット開発は、「人間をまねた動く機械」を精巧に作り上げることに重点が置かれてきました。しかし、これからの社会では、実際にロボットが人間社会に入って活躍して、いかにことが予想されます。そうなると、開発側も、ロボットを作るだけの研究から、ロボットを使う側の研究もしなければいけません。ロボットと人間が共存するための社会整備も必要になってきます。こうした状況を先取りし、実践的ロボット教育プログラム機関としてスタートするのが、当学科です。ここでは、人間社会との共存というアプローチからロボットを研究していきます。そのため、対象とするロボットも産業用などの大掛かりなものよりは、福祉や介護など、身近に人と接するよりなタイプのものが多くなっていくでしょう。

また、「プロジェクト」という企画・実践・成果発表を行う実習演習タイプの講義を用意

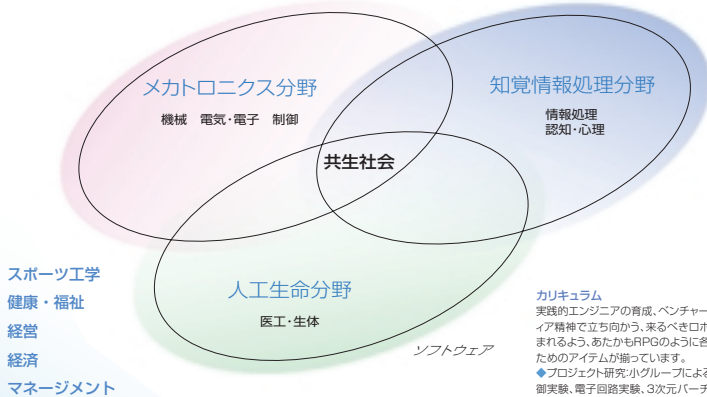
しました。10人ほどでチームを組み、それぞれに目標を定め、立案から達成までを3年間かけて行います。さらに、学生が自分のトピクスに合わせて、好きな年次に好きな科目を履修できる体制を整え、通常の4年間で学部修了に加え、3年次修了時点から大学院の飛び級も可能になります。

基盤とするのは人間の営みです。工学技術を手を携え、軸足を人間に置いて、もう一方の足を情報・産業・医療文化などさまざまな領域に踏み出し、かつてない新しい生活環境・価値観を創造できる人材を育成していきます。



機能ロボティクス学科の分野構成概念

ハードウェア



スポーツ工学
健康・福祉
経営
経済
マネージメント

機能ロボティクス学科

2005年4月開設予定
110名募集予定

<未来の社会を共に創ろう>

- 理系志望者：東洋大学ブランドのロボット創生を夢見たい人
- 医工志望者：マイク医療ロボット開発で世の中に貢献したい人
- 文系志望者：ロボットとの共生社会システムの構築をやってみたい人

カリキュラム

実践的エンジニアの育成、ベンチャー起業などの新領域にフロンティア精神で立ち向かう、来るべきロボット社会を先導する人物が育まれるよう、あたたかもRPGのように各ステージ(学年)をクリアするためのアイテムが揃っています。

◆プロジェクト研究/小グループによる自主的活動 ◆ロボット運動制御実験、電子回路実験、3次元バーチャル空間心理実験、新素材材料開発実験、生体機能観察実験 ◆マイクロセンサー開発設計演習、プログラムミニング演習、ロボットデザイン演習 ◆人体のしくみと機能、ロボットのセンサー・アクチュエータ、バイオメカニクス、人間工学、ロボット環境学、ソフトコンピューティング、医用生体工学、サイバネティクスなど

研究

パワーアシスト装置の開発、マスターズルーペスケーリング制、人工魚、ニューロファジー制御、イメージ伝達効果、バイオセンシング、宇宙における生理、マイクロボット、人工臓器開発など